

第4回レイルウェイ・デザイナーズ・イブニング (RDE)

2018年12月6日 (木) 京都鉄道博物館 3階ホール



地域文化と 鉄道デザイン



photo-1

RDEフォーラム 2018 ----- 鉄道デザインの過去・現在・未来

鉄道デザインは、鉄道が地域に根ざしたものであるだけに、地域性という軸を考える必要がありますが、もう一つの軸に歴史があります。鉄道が現在の状況に至るには、先人たちの絶え間ない努力や技術の進歩、社会の変化があったと考えます。地域性とその歴史が重層し文化となり、デザインとして今にあるのです。第4回となるRDEフォーラムは、鉄道デザインの過去・現在・未来を体感できる「京都鉄道博物館」を舞台に、「地域文化とデザイン」をテーマに開催いたします。



RDE2018 in 京都鉄道博物館

photo-1,2 京都鉄道博物館提供

第1部 講演会／博物館見学会 参加費：¥2,000- (入場料+軽食)

11:30~16:00

- 基調講演 2
- 館内見学会
- テーマ講演 3

第2部 情報交流会 参加費：¥5,000-

16:00~17:30

- 懇親会／



総合司会：久野友美

主催：レイルウェイデザイナーズイブニング実行委員会、フジサンケイビジネスアイ

後援：(一社)日本鉄道車両工業会、(公社)日本インダストリアルデザイナー協会、(公社)日本サインデザイン協会

基調講演

**鉄道デザインの過去・現在・未来**

南井 健治（みないけんじ）

近畿車輛株式会社 取締役 設計室長。

京都市立芸術大学卒業後、79年近畿車輛株式会社入社。以来、国内外の鉄道車両デザインに携わる。車両事業本部営業部長を経て15年より現職。日本インダストリアルデザイナー協会会員。レイルウェイデザイナーズイブニング実行委員長。著書に「鉄道車両のデザイン（学研）2012」。

**京都鉄道博物館の意義**

藤谷 哲男（ふじたにてつお）

京都鉄道博物館 副館長。

77年国鉄入社。ディーゼル機関の検修など多くの業務に従事。SLやまぐち号けん引用のC57形1号機の復活整備を担当。西日本旅客鉄道株式会社 本社鉄道本部車両部にて各種車両の改造工事計画や鉄道用車両部品の長寿命化に取り組む。梅小路運転区長としてSL動態保存に取組み、16年より現職。



テーマ講演

**商都大阪と古都京都を結ぶ --- 京阪電鉄の企業文化とそのデザイン**

大浅田 寛（おおあさだひろし）

京阪ホールディングス株式会社 経営統括室 経営戦略部長。

92年京阪電気鉄道株式会社入社。土木部門で構造物管理業務等を担当した後、02～09年にお客さまサービス事業部で駅サイン・ファニチャーをはじめとするトータルデザインやその他企画業務を担当。その後、役員秘書、くずはモール第二期開発準備室等を経て現職。

**ドーハ向け車両デザイン ----- 異なる文化と鉄道**

ダニエル ロドリゲス（Daniel Rodriguez）

近畿車輛株式会社 デザイン室 シニアエキスパート

メキシコシティ生まれ。大学でインダストリアルデザインを専攻し、2000年京都市立芸術大学にてプロダクトデザイン修士号取得。この年近畿車両に入社、国内外の鉄道車両の開発に参加。米国ロサンゼルスライトレール車両、ドバイおよびカタール・ドーハ地下鉄などを手がける。

**国内の路面電車と地域特性**

田島 辰哉（たじまたつや）

アルナ車両株式会社 代表取締役社長。

京都大学大学院精密工学専攻修了。1989年阪急電鉄株式会社入社。1998年アルナ工機株式会社へ出向、プロジェクトリーダーとして純国産初の低床路面電車を開発。2002年より同社の事業継承会社アルナ車両株式会社で「リトルダンサー」シリーズの開発、展開に携わる。2017年より現職。

**総評**

山田 晃三（やまだこうぞう）

株式会社GKデザイン機構（GK Design Group Inc.）取締役相談役

GKインダストリアルデザイン研究所入所、GKとマツダの合弁によるGKデザイン総研広島代表取締役社長、GKデザイン機構代表取締役社長をへて現職。モビリティのあり様を「トータルデザイン」の視点から提言。日本インダストリアルデザイナー協会理事、日本グッドデザイン賞審査員フェロー。